別紙

大分県教育センター　特別支援教育部　令和５年度調査研究

小・中学校の特別支援学級及び
通級指導教室における自立活動の実践事例集

大分県教育センター

令和６年３月

目　次

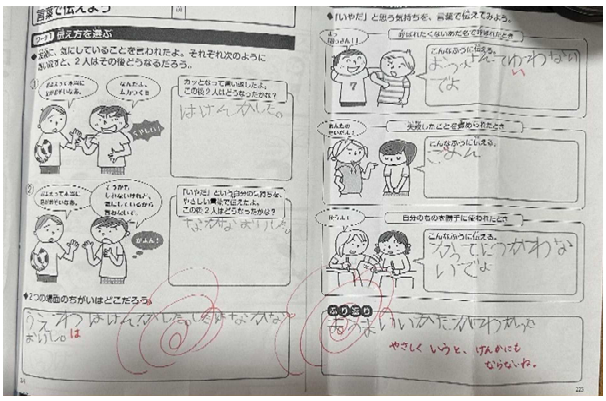
《特別支援学級》

校種	学級種別	内容	頁
小学校	知的障がい	気持ちを言葉に出して伝える	1
小学校	知的障がい	他者の気持ちを考えて、話をする	3
中学校	自閉症・情緒障がい	気持ちを伝える、文章で表す	5
小学校	知的障がい	感情をコントロールする・適切に行動する	6
小学校	自閉症・情緒障がい	一日の見通しを持つ・予定に沿って行動する	7
中学校	自閉症・情緒障がい	提出物の期限を守る、気持ちを言葉で表現する	9
小学校	知的障がい	書字や描画等の動作を身につける（目と手の協応動作）	10
小学校	知的障がい	形や位置を見分ける（視覚認知・目と手の協応動作）	11
小学校	知的障がい	作業の基本動作を身につける（作業の巧緻性・持続性）	12
小学校	知的障がい	ひもを結ぶ	14
小学校	知的障がい	蝶結びをする	15

《通級指導教室》

校種	内容	頁
小学校	適切な声の大きさで話す・交互に会話する	16
小学校	ルールを遵守する、場に応じた行動をする	17
中学校	場に応じた会話や行動をする	20
小学校	集中して活動に取り組む・形を識別する（漢字の読み）	22

特別支援学級　実践事例

校種（学級の種別）	小学校（知的障がい特別支援学級）	本事例の教科等名	自立活動
在籍児童生徒の実態	・R 児　４年生 ・友達とのかかわりに苦手さがあり、かまってほしい人をつねったり、叩いたり、ひっかいたりする。 ・自分の思いを言葉に出すことが苦手で、嫌なことを言われても、黙っていたり、蹴ったりと言葉で自分の気持ちを伝えようとしないので、相手にも自分の気持ちが伝わりにくく、教師が間に入って代弁することが多い。 ・言われても言い返せず我慢していることも多いので、嫌な気持ちが残りやすい。 ・WISC‐Ⅳの検査では、処理速度が特に低く、動作や言葉もゆっくりとしている。そのため、今まで同級生から「早くして」と催促されて言い返せず、嫌な経験をしたことも多いようである。	目標・指導内容	ＳＳＴで自分の気持ちや他者の気持ちを考えたり、ロールプレイングで声を出したりすることによって、友達との関わりで自分の気持ちを声に出すことができる。 3.人間関係の形成 (２)他者の意図や感情の理解に関すること。 (３)自己の理解と行動の調整に関すること。
指導の経過・工夫点・子どもの変容	１．始めに、ソーシャルスキルトレーニングをする上で、苦手意識が出ないよう、ゲーム感覚で取り入れられるよう、ソーシャルスキルトレーニングすごろくを取り入れた。（ＳＳＴボードゲーム「なかよしチャレンジ」、監修：本田恵子、出版社：クリエーションアカデミー） ・ゲーム感覚ででき、場面設定が学校の中で起こる問題なので、自分事として考えやすかった。 ・自分の考えが言葉に表すことが難しい子どもだが、３択があることで、自分の答えに近いものを選ぶことができた。 ・すごろくゲームなので、楽しんでいきいきと取り組む姿が見られた。ＳＳＴの時間が児童にとって楽しみな時間として位置づけられていた。 ・選択肢を選ぶときに「我慢する」を選ぶことがほとんどであった。 ２．ＳＳＴに慣れたり、楽しさや意欲が高くなったりした状態で、ワークシート型のソーシャルスキルトレーニングを取り入れた。（クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法、著者：岩澤一美、出版社：ナツメ社） ・自分の気持ちを友達に発表して声に出させるようにした。 ・必ずロールプレイングをして考えたことを言葉に音声として出させるようにした。 →少しずつ声を出す習慣がつき、声量が大きくなってきた。 校長からも「自ら元気のよい声で挨拶するようになった。」と話があった。		
成果と課題・今後の方向	【成果】 ・始め、遊び感覚でＳＳＴを取り入れたことによって意欲が高い状態が続いており、支援学級の中では自分の気持ちを言い表すことに抵抗感が少しずつなくなってきた。表情がよく、いきいきと取り組む姿が見られる。 ・ワークシートは書くところがたくさんあるが、漫画風に吹き出しを書くことやイラストが多いことにより、R 児はわかりやすく取り組むことができている。  出典：岩澤一美著　クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法　ナツメ社		

	【課題】 ・ワークシートでのロールプレイングでは、「〇〇のように言いたい」という気持ちが見られるが、ＳＳＴボードゲームでは依然として「我慢する」を選ぶことがほとんどで、頭で理解していることと、自分の立場とのギャップがまだ大きい。その溝を埋める手立てを模索中である。

特別支援学級　実践事例

校種（学級の種別）	小学校（知的障がい特別支援学級）	本事例の教科等名	自立活動
在籍児童生徒の実態	・学習面では、くり返し学習しても覚えることができない。 ・生活面では身だしなみを整えることや授業に必要なものを準備すること、持ち物を管理することができない。 ・相手の気持ちを考えることが難しく、その場に合った言葉を考えて使うことができない。 ・都合が悪くなると何も言わなくなる。	目標・指導内容	・相手とのコミュニケーションのとり方について適切な方法を知る。 ・いろいろな気持ちを表す言葉を知り、表現することができる。 ・表情や場面の状況から、相手の気持ちを考えることができる。

指導の経過・工夫点・子どもの変容（＊）

【めあて】　どんなことばをかけるとよいかな。

【課題】　相手も自分も気持ちよく過ごすにはどんなことばをかけるとよいのかな。

●生活の中での出来事を振り返る。
○言葉を出し合うことができるよう、知っている言葉を出し合い、カードに書いて提示する。
●絵を見てどんな場面かを話し合い、絵の中の人物はどんな気持ちなのか考える。
○背景や人の他に描かれている物にも注目し、どんな場面か分かる手がかりを見つけさせる。
＊絵の中の細かい部分にも注目し、どんな場面か、どんな気持ちかを考えるようになる。
○自分に置き換えて考えられるよう、生活の場面に結びつけて考えさせる。
＊自分だったらどんな気持ちか、自分がその場にいたらどんなことばをかけるか考えるようになる。
●話し合った会話を実際にやってみて、自分や相手の気持ちを考える。（ロールプレイ）

【まとめ】　相手の気持ちを考えてことばをかけることで、自分も相手も嬉しいきもちになる。

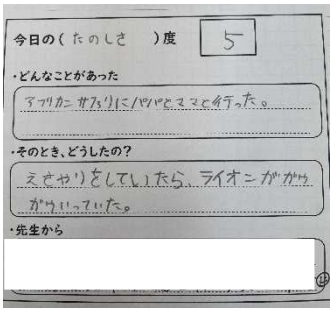
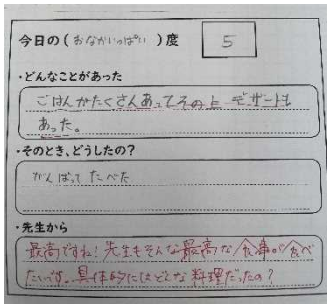
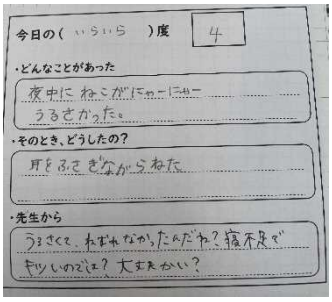
【ふり返り】
「相手が喜ぶことばをたくさん使って、みんなをにこにこさせたい。」
「困った人には「どうしたの？」と言って安心させてあげたい。」

成果と課題・今後の方向	【成果】 ・友だちと過ごす中で、相手にかけるとよい言葉を知り、実際に使うことができている。 ・相手の表情を見て感じ取ったり、周りの状況を見て相手の気持ちを想像したりしようとする姿が見られている。 ・自分に起こった出来事や、自分の気持ちを上手く話せない時は、授業で使った場面の絵の中から同じ内容の絵を自分で選び表現しようとしている。 【課題】 ・異学年が集まり、学習の到達度も全く違う現状で行う授業では、誰でもが見やすく、わかりやすい板書にする工夫が必要である。 ・コミュニケーションに関しては、支援学級のみの指導では不十分なため、その子に関わる方々にも協力を求めたり、支援学級以外で過ごす時間にも、相手との関わり方や状況を見ながら上手く支援したりすることが大切である。

特別支援学級　実践事例

<table>
<tr><td>校種（学級の種別）</td><td>中学校（自閉症・情緒障がい特別支援学級）</td><td>本事例の教科等名</td><td>自立活動</td></tr>
<tr><td>在籍児童生徒の実態</td><td>・自分の思ったことをすぐに口に出してしまう。
・相手の気持ちを読みとることが難しい。
・自分の気持ちを自分の言葉でうまく表現し、伝えることができない。</td><td>目標・指導内容</td><td>【目標】
〇自分のことや今日の出来事を自分の言葉で表現し、自分の言動を振り返ろう。
【指導内容】
〇自分のことや言動を振り返り、自分の気持ちをうまく伝えることができる。</td></tr>
<tr><td>指導の経過・工夫点・子どもの変容</td><td colspan="3">【これまでの取り組み】

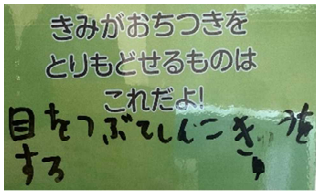
・昨年度からの取り組みで、『サイコロジーゲーム』（監修者加藤美香）と『トーキングゲーム』（元筑波大学付属大塚特別支援学校　地域支援部長　安部博志　考案）を組み合わせたものを使い、順に自分の番でサイコロを振り、進んだマス目の指示に従って、話す内容が書いたカードを引き、自分の気持ちを伝えた後、自分の好きな動物やものをとっていくすごろく（右上写真）をした。また、相手の顔を見ながら、しっかりと話しを聞くことも留意して行った。
・少しずつ自分の気持ちを表現できるようになってきたが、自分の言葉で文章にすることが苦手であることもわかった。

【指導の過程と子どもの変容】
・自分の言葉で文章にすることが苦手であることから、週に2回くらいのペースで交換日記（右写真）を実施した。
・下写真のように、『今日の（　　）度』という項目をつくり、5段階で数字を記入していった。日によって、「たのしさ度」や「イライラ度」などがあり、今日一日の自分の気持ちや言動を振り返ることができるようになり、意識して言動をするようになった。また、自分の気持ちや言動を自分の言葉で表現し、文章にすることができるようになった。
 
今日の（たのしさ）度　5
・どんなことがあった
アフリカニサファリにパパとママと行った。
・そのとき、どうしたの？
えさやりをしていたら、ライオンがかけよってきていた。
・先生から
 
今日の（あながいっぱい）度　5
・どんなことがあった
ごはんかたくさんあってその上デザートもあった。
・そのとき、どうしたの？
かんばってたべた
・先生から
最高ですね！先生もそんな最高な食事。食べたいです。具体的にはどんな料理だったの？
 
今日の（いらいら）度　4
・どんなことがあった
夜中にねこがにゃーにゃーうるさかった。
・そのとき、どうしたの？
耳をふさぎながらねた
・先生から
うるさくて、ねむれなかったんだね？猫不足でキツいのでは？大丈夫かい？</td></tr>
<tr><td>成果と課題・今後の方向</td><td colspan="3">【成果】
・自分の気持ちや言動を振り返り、意識して言動をするようになった。また、自分の気持ちや言動を自分の言葉で表現し、文章にすることができるようになった。
【課題】
・自分の伝えたいことだけを書くので、第三者から見たら内容がつかみにくい。
【今後の方向】
・誰が見てもわかるように具体的に書くように指導していきたい。</td></tr>
</table>

特別支援学級　実践事例

<table>
<tr><td>校種（学級の種別）</td><td>小学校（知的障がい特別支援学級）</td><td>本事例の教科等名</td><td>自立活動</td></tr>
<tr><td>在籍児童生徒の実態</td><td colspan="2">A 児（3 年）
・できないことや間違いがあるとイライラして不機嫌になる。
B 児（4 年）
・できないことや間違いがあるとイライラして不機嫌になる。
C 児（5 年）
・人の言動で納得できないと何度も指摘する。</td><td>目標・指導内容

「アンガーコントロールフラッシュカード」を使って、大小さまざまな感情を表現する語彙とマイナス感情をプラスに変える言葉を身につけさせたり、「いかりのおんどけい」を使って怒りの大きさの違いを認知させたりして、怒りのコントロールの段階やおさえ方などを考えさせ、日常生活に生かせるようにする。</td></tr>
<tr><td>指導の経過・工夫点・子どもの変容</td><td colspan="3">

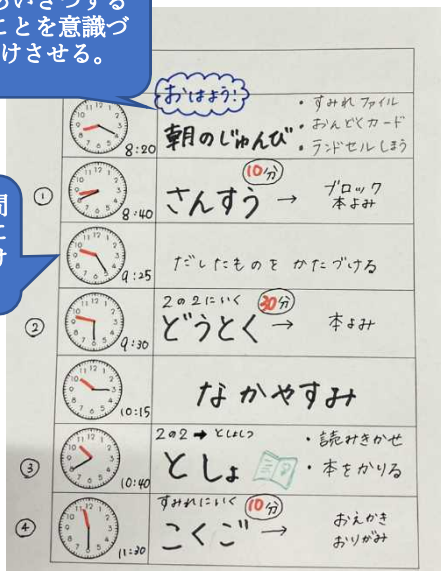


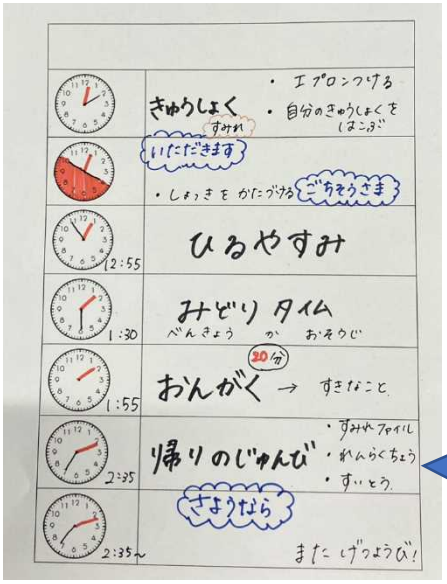
①『アンガーコントロールフラッシュカード』を使って、マイナスの気持ちを教師の後にリピートさせ、児童に怒りの感情に対する言葉を身につけるようにさせる。
②「いかりのおんどけい」を使って、「出来事の軽重によって、怒りの大きさと表現が異なる」ことを体感させる。
③自分の怒りの感情を落ち着かせる方法を話し合う。それを記録したメモをアンガーログファイルの「きみがおちつきをとりもどせるのはこれだよ！」の箇所に貼り付けて保存させる。
④「アンガーコントロールフラッシュカード」の両面を使って、表面のマイナスの気持ちを裏面のプラスの認知に変換できる学習をする。
児童が怒りの場面に遭遇した際に、そのときはどんなマイナスの気持ちだったかとその気持ちを言い換えるプラスの言葉は何だったかを確認するようにする。できたときは、褒める。
⑤児童が遭遇した怒りの状況と結果を付箋紙等のメモに記入させ、その怒りがアンガーログファイルの中のどの怒りの度合いにあたるのかを考えさせて保存させる。プラスに言い換える「ポジティブ・チェンジ」の確認もする。</td></tr>
<tr><td>成果と課題・今後の方向</td><td colspan="3">○自分のはっきりしない不快な感情をカードで示すことで、言葉に変換し、分析できるようになってきた。なかなか自分の感情を説明できない児童や話したがらない児童も少しずつ話せるようになってきた。
○話し合いのあと「いかりのおんどけい」を指し示し、気持ちが落ち着いたことを確認できるようになった。
○マイナス感情が起きた出来事やポジティブ・チェンジの言葉をメモして保管しておくことで、児童が自分たちの感情を分析したり切り替えたりする意識ができてきている。
○以前はすぐに「おこった」「いらいら」のカードを選んでいた児童が「ざんねん」のカードを選ぶことができるようになった。
●児童がある出来事に対して過度な怒りを表すカードを選んだとき、指導者は子どもの怒りに共感しつつもその場面に望ましいレベルのカードを説明するが、なかなか受け入れられない。</td></tr>
</table>

特別支援学級　実践事例

校種(教室の種別)	小学校（自閉症・情緒障がい特別支援学級）	本事例の教科等名	自立活動
在籍児童生徒の実態	１年１名、２年５名　計　６名 本事例対象児童Ａ児（診断名：多動症、情緒障がい、自閉スペクトラム症）は、書くことを極度に嫌がり、なぞることやシールに文字を書いたものを貼る方法などでプリント学習を中心に行っている。他の子と同じ学習をすることができない。学習は４５分中１０分程度するこができる。 行動の切り替えが難しく、興味があることは、静かに長時間取り組むことができる。目を見て話すことができない。友達によくちょっかいを出してトラブルになることが多々ある。	目標 ・ 指導内容	【目標】 生活に見通しを持って、自分で決めた時間まで課題を行う。 【関連する内容】 １健康の保持（１）、２心理的な安定（１）（２）（３）、３人間関係の形成（３）

指導の経過・工夫点・子供の変容





指導・支援の経過

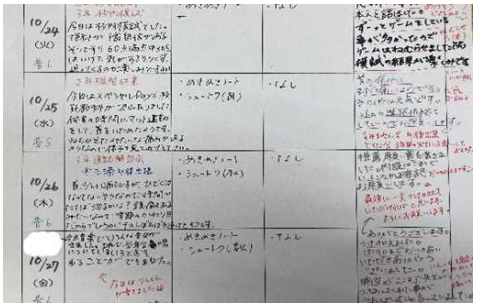
・朝、Ａ児にスケジュールを渡し、半分近くは交流学級で活動するように促しながら、交流学級で何分、特別支援学級で何分、活動するかを決める。

・国語、算数では個人の課題を終えた後に何をするかをあらかじめ決めておき、課題が終わり次第、決めておいた内容で過ごす。

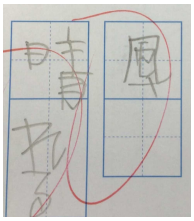
・計画は立てるが本人が難しいと感じた場合は、自ら担任に「教室に行く時間を短くしたい。」と言うようにしている。

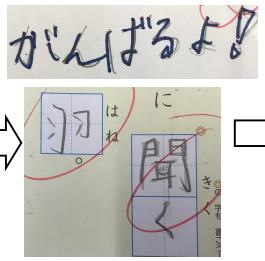
・終わった活動は線を引き、視覚的にも達成した感覚を持ってもらう。

	児童の変容 ・４月から７月は、学習をしたい時や声かけを続けなければ学習に取り組むことができなかった。また、学習を始めても、自分のしたいことや周りが気になってすぐに学習を中断する姿が見られた。 ・９月からスケジュールを使った支援をはじめたが、当初は慣れてないため、スケジュール通りに活動することが少なかった。しかし、３週間ほどで要領をつかみ、終わった活動には自分で線を引いて自主的に取り組むようになった。 ・学習時間も自分で決めていることから、最後まで取り組もうとする姿が見られた。
成果と課題・今後の方針	○細かくスケジュールを管理することで、活動に見通しを持ちやすくなり、以前に比べて積極的に学習に参加できるようになった。 ○切り替えが難しい児童であったが、時間を決めていることから次の活動へ切り替える時間が短くなった。 ○見通しが持てることから、不安が軽減してイライラすることが少なくなった。 ▲細かくスケジュール管理をしているため、それ以外の行動がしにくくなった。 ▲見通しを持った行動はできるが、急な変更があった時に A 児が調子を崩す可能性がある（「スケジュールに書いてないことをしたくない」等）。 　現在は細かく管理しているため、慣れてスムーズに行動ができるようになったら今後は、大まかなスケジューリングにしていきたい。

校種（学級の種別）	中学校 （自閉症・情緒障がい特別支援学級）	本事例の教科等名	自立活動（朝と帰りに帯で時間設定）
在籍児童生徒の実態	○Ａさんは自閉スペクトラム症との診断を受けている。集団の中で話を聞きとることが困難で、個別の支援を必要とする。また、提出物の期限を守ることや具体的な指示が出されていない自学等を取り組むことが難しい。 ○自分の気持ちを言語化することが苦手で、「普通です」や「何もありません」などの言葉でごまかしてしまうことがある。	目標 ・ 指導内容	○提出物の期限を守ることができるようになる ○自分の気持ちを言葉で表現できるようになる
指導の経過・工夫点・子どもの変容	○日程の見える化 黒板にその日の日課と教室を記入 ○連絡ファイルの活用  その日あった出来事と感想、課題と提出物を記入し、保護者にコメントをもらうというやり取りをしている ○朝の会 登校後、特別支援学級へ ➡ 課題・提出物点検 連絡ファイル提出 今日の日程の確認 ➡ 交流学級へ登校 ○帰りの会 下校前に特別支援学級へ ➡ 課題の指示 提出物の確認 連絡ファイルの記入 翌日の日程の確認 ➡ 下校		
成果と課題・今後の方向	○成果 ・保護者と連絡ファイルのやり取りをするようになり、提出物の期限は守れるようになった。 ・課題は自学の指示を出すことで取り組むことができるようになった。 ・その日の出来事と感想を聞くコミュニケーションを繰り返すことで、１番楽しかった出来事やその時の自分の気持ちを話せるようになった。それに付随して自分の好きなこと、驚いたこと、楽しみにしていることなど以前よりもたくさん話すようになった。 ○課題 ・今後に向けて、集団の中でのコミュニケーションを高めていく手立てを工夫していく必要がある。		

特別支援学級　実践事例

<table>
<tr><td>校種（教室の種別）</td><td>小学校（知的障がい特別支援学級）</td><td>本事例の教科等名</td><td>自立活動</td></tr>
<tr><td>在籍児童生徒の実態</td><td colspan="2">○２年生男児
・鉛筆を正しく持つことが苦手(右手)
・目と手、手と手の協応動作が苦手で、書字や描画がうまくできない
・形の認識がうまくできず、書字や描画に苦手意識を持っている。</td><td>目標
○書字や描画等学習のための基本動作を身につけることができる。
指導内容
○手の動きを目で追うこと
○目と手、右手と左手等を協応させながら動かすこと</td></tr>
<tr><td>指導の経過・工夫点・子どもの変容</td><td colspan="3">○指導・支援の実際と工夫点
・簡単なビジョントレーニングで、目で一つの物を追うことに慣れる。
・多面的に形を認識し、自らの動きを具体的に想像してから線を書くことに慣れる。
・鉛筆の持ち方の確立と、手の動かし方を覚えるために、教師と一緒に色々なものを書く。
○児童の変容
 
年度当初の本児の書いた文字

タブレットで線をなぞる練習
 
指導後の本児の書いた文字

指導後の本児の文字を書く姿</td></tr>
<tr><td>成果と課題・今後の方向</td><td colspan="3">○成果
・本児が好きなキャラクターのペープサートを使ってビジョントレーニングをおこなったことで、目で物を追うことに慣れてきた。
・書字や描画の経験が少なかったようで、はじめのうちは鉛筆を持つことに抵抗があった。そのため、共有ノート(ロイロノート)を使って教師が書くのを見た後、線をなぞったり書いたりする活動をした。その結果、目と手の協応動作ができるようになり、元の線を大きく外れることなくなぞれるようになってきた。
・書く経験を重ねることで、文字の形を具体的に認識することができるようになったようで、筆圧も強くなってきた。
・右手と左手の協応動作ができるようになり、鉛筆の持ち方やノートを押さえることもできるようになってきた。
○課題
・整った形の漢字を書くことができるようになってきたが、覚えることはまだ難しい。
・文字を書くことに抵抗はなくなったが、絵をかくことに対してまだまだ抵抗がある。</td></tr>
</table>

特別支援学級　実践事例

校種（教室の種別）	小学校（知的障がい特別支援学級）	本事例の教科等名	自立活動
在籍児童生徒の実態	○学習に対して意欲的な児童が多い。 ○ブランコやボール投げ、おにごっこが好きでよく走り回って遊んでいる児童が多い。 ○視空間認知や目と手の協応が弱く、音読や書字が苦手である。 ○集中して、注意深く作業を進めることが苦手である。	目標・指導内容	・集中してよく見る力を身につけることができる。 【４環境の把握（２）】 ・見本通りにシールを貼ったり、点つなぎをしたりすることで空間認知力を高めることができる。 【５身体の動き（５）】

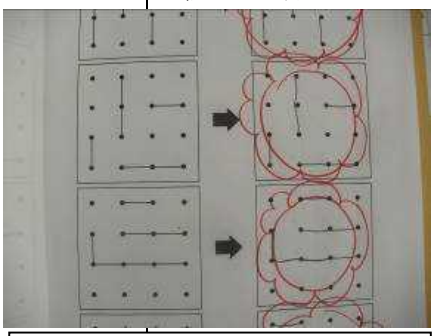
指導の経過・工夫点・子どもの変容

○間違いさがし

・３分間一人で間違いを見つける。分からない子どもには「右上を見てごらん。」「左下を見てごらん。」とヒントを伝える。

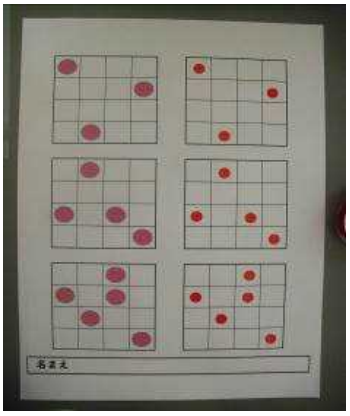
・３分後答え合わせをする。「マンホールの模様が違います。」「リュックサックの大きさが違います。」など間違いの個所をできるだけ言葉で伝えさせる。実物投影機を使って発表のあった個所に○をつけていく。

○個別の課題



点つなぎ（左の見本と同じ位置の点をつなぐ）

醤油差しの蓋を開け、色水を入れて、蓋を閉めて、置く



シール貼り（左の見本と同じ位置にシールを貼る）

・飽きないように数種類準備する。

・正しく、ていねいに取り組むように声をかける。

・集中して取り組めるように課題の時間を１０分とする。

・花丸やできた個数、時間など子ども自身スキルが上がっていることを実感できるようにする。

＊音読は、国語の授業のはじめに１０分間を「読むトレ」として、単語を読み、意味の確認を行っている。

成果と課題・今後の方向

○課題にていねいに取り組めるようになってきている。

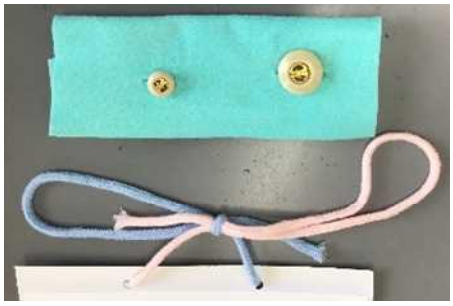
○ノートや漢字プリントの文字が少しずつ整ってきている。

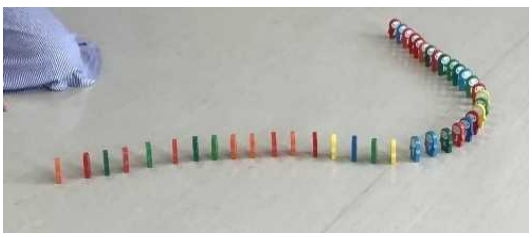
○自立活動の時間を楽しみにしていて、意欲がわいてきている。

○在籍児童が６名で、個別に課題を抱えているので、それぞれ違った個別課題に取り組んでいる。しかし、友だちのやっていることが気になって集中できないこともあるので、パーテーションなど環境を整える必要がある。また、即時評価が難しい。

特別支援学級　実践事例

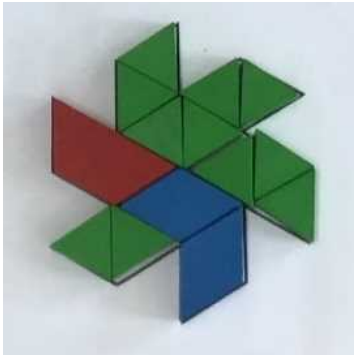
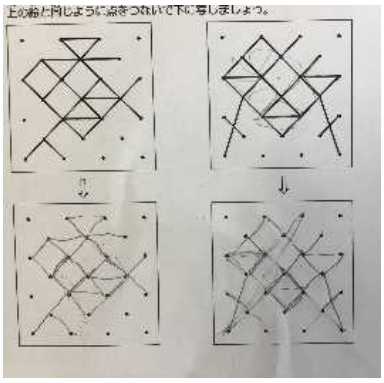
<table>
<tr><td>校種（学級の種別）</td><td>小学校（知的障がい特別支援学級）</td><td>本事例の教科等名</td><td>自立活動</td></tr>
<tr><td>在籍児童生徒の実態</td><td>○つまむなどの細かい作業が苦手
○鉄棒、縄跳び、ボール操作、マット運動など体を動かしたり回転したりすることが苦手
○見たり聞いたりして情報を理解することが苦手
○点つなぎ等の、どこからどこまでか、どこに着目するのかを把握するのが苦手
○集中力がある程度で切れる
○相手の気持ちを察するのが苦手</td><td>目標・指導内容</td><td>5身体の動き
（5）作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図る。
ボタン、蝶結び、ビーズ通し、折り紙、ドミノ、マット、ボール操作、（点つなぎ、色板、）裁縫</td></tr>
<tr><td>指導の経過・工夫点・子どもの変容</td><td colspan="3">○ボタンかけやビーズ通し、蝶結びなど指先を使う活動を行った。
①ビーズで髪飾り用のゴムや腕輪を作った。最初のビーズはキャンディ型でつまみやすかったが、2回目からは丸いビーズ（右写真）にした。3作品目でゴムの最後の処理（固結び）ができるようになった。さらに小さい青や白のビーズにしたり、色の順を指定したりして挑戦させた。小さいビーズは最初、つまみあげることも苦労していた。少しずつではあるが、つまみあげたり指で回して穴を探したりすることができつつある。

②ボタンかけ（右写真上）はすぐにできるようになった。蝶結び（右写真下）は左右で紐の色を変えて取り組ませた。赤で頭を作り、青で首を巻いて、お腹から紐をとる、というように体の部位をイメージして練習させた。（写真は、フックにかけるための蝶結び。最初はよくほどけていたが、だんだんとほどけなくなってきた）
 
③折り紙を折って、飾りや掲示物を作った。（下・右写真）
「半分に折るときは角をピッタリ合わせる」など、どこに着目して折り目をつけるのか「4環境の把握」とも関連付けて行った。

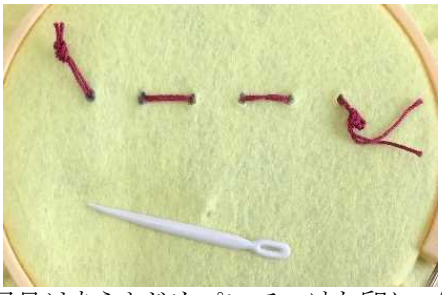
○指先を使いながら、集中して取り組めるドミノを行った（下写真）。
最初は作業しやすい机の上で行った。倒してしまっても笑いが起き、楽しそうに取り組んでいた。2回目からは机の上だけでは狭くなり、床に作り始めた。正座して前かがみになっているので難易度は上がっているが、長い時間、集中して取り組めた。4回目では、ベルを最後にセットするよう自分で工夫していた。ベルが鳴ることでご褒美のように感じているようだった。
  </td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td>
○ボール遊びやマット運動など、体幹や回転に関わる運動を行った（右写真）。

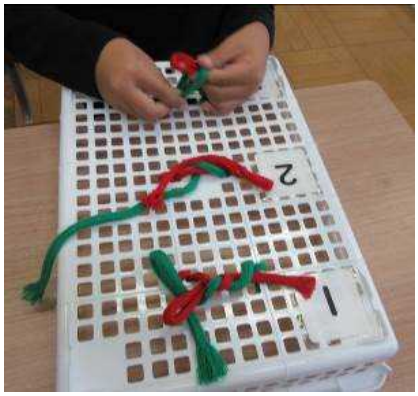
　初めてバランスボールを見た時は、叩いたり転がしたり、二人で運んだりして遊んだ。2回目で机につかまりながら座ったり、少し弾んだりした。3回目からは他の友だちをまねて、お腹で乗ってみたり片手を外して座ってみたりしていた。何度か取り組む中で、「先生、数えて」と手を放して乗るようになった。教師の唱える数が増えていくと、記録が伸びるのが嬉しいようで、何回も挑戦していた。
　キャンディーボールを使ってのボールつきは上手にできた。「あんたがたどこさ」は何度も見本を見たり練習したりしたが、足を反対回しにあげてしまい、うまくいかなかった。
　マット運動では、卵やゴボウになりきって、揺れたり回転したりした。揺れや回転が無いマットキャタピラーは好きでどんどん取り組んだが、ゴボウは抵抗を示していた。

○色板や点つなぎをした（右写真）。



　③での「４環境の把握」と関わって、どこに着目するのかが苦手だったため、取り入れた。色板は枠だけ印刷し、そこにどの形の色板を埋めると完成するか自由に考えさせた。「ひっくり返すとはまる」という発想が難しいようで、いつも一番小さい色板で解決を図ろうとしていた。点つなぎは「コグトレ」を取り入れた。プリントをもらってすぐ「無理」と言いつつも、何番目なのかを数えて確かめながら取り組んでいた。

○裁縫の前準備の活動を行った（右写真）。

　最初にフェルト生地で作ったはさみのカバーを見せて、興味を持たせた。縫い針に似た形状の紐通し、編み物用の糸、フェルトを準備した。1回目は玉結びをした。指でよるのが難しかったため、玉止めのようにすることでできるようになった。2回目は、フェルトに刺し、玉止めをした（担任がそれを使ってイチゴのかざりを作った）。3・4回目はあらかじめペンでつけた印に、紐通しを出し入れすることで波縫いの要領をつかませた。5回目に本物の縫い針と糸を使用した。細く短く手に刺さる本物の針にかえると、つまみにくく、操作しづらいようだった。糸も細く、糸切りバサミの操作も必要だった。思ったより時間がかかり、フェルトで小物を作る期間と交流学級で家庭科の裁縫を学習する時期が重なってしまったが、交流学級での裁縫は自信をもって取り組めた。
</td>
</tr>
<tr>
<td>成果と課題・今後の方向</td>
<td>
○苦手だと思っていた細かい作業の「できた」を重ねたことで自信をつけていったことが一番の成果である。ビーズや折り紙の飾り等、かわいい作品が集まったことも本人にはうれしいことのようだった。同じ支援学級の友だちや支援員さんに「プレゼントする」と言って休み時間にも一人で作っていた。
○今後は、場所や形の認知に関する活動や回転などの運動を取り入れていきたい。また、縄跳びやフラフープなどの操作が必要な活動も取り入れていきたい。
</td>
</tr>
</table>

特別支援学級　実践事例

<table>
<tr><td>校種（学級の種別）</td><td>小学校（知的障がい特別支援学級）</td><td>本事例の教科等名</td><td>自立活動</td></tr>
<tr><td>在籍児童生徒の実態</td><td>・固結びや、二つ結び、ちょうちょ結びの結び方を知らなかった。
・給食係りでごみ袋を結べなかったり、体育でなわとびの縄を結べなかったりした。</td><td>目標・指導内容</td><td>紐の色々な結び方を覚え、結ぶことができる。</td></tr>
<tr><td>指導の経過・工夫点・子どもの変容</td><td colspan="3">・最初は、教師が結び方の手本を見せたり、手を添えて児童と一緒に結んだりしながら結び方の確認を行い、結び方の見通しをもてるよう練習した。
・次に、紐結びを最初の手順からするのではなく、最後の簡単な手順のみに取り組み、達成感を得られるようにした。できるようになれば、手順を増やしていき、スモールステップで取り組んだ。
・慣れてきたら、紐の太さ、色、結び目の大きさ、紐を持つ場所など細かいところに注目して指導し、より効率よく、しっかりと結べる結び方の練習に取り組んだ。
 

教師がちょう結びの輪を糸で縫って作っており、少ない手順からスタートできるようにしている。</td></tr>
<tr><td>成果と課題・今後の方向</td><td colspan="3">成果：一人で固結びや、二つ結び、ちょうちょ結びを結ぶことができた。また、同色の紐でも、混乱することなく結ぶことができた。

課題：リボンやビニール袋など素材が違ってもできるよう、色々な素材で練習する必要がある。

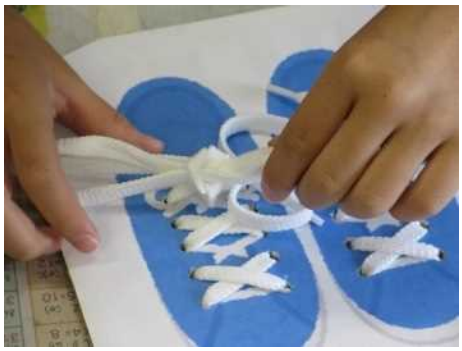
今後の方向：色々な素材、色々な場面（座って結ぶ、立って結ぶなど）を想定して、練習の場を設け、家庭でも取り組んでもらえるよう保護者に協力してもらう。</td></tr>
</table>

特別支援学級　実践事例

<table>
<tr><td>校種（学級の種別）</td><td>小学校（知的障がい特別支援学級）</td><td>本事例の教科等名</td><td>自立活動</td></tr>
<tr><td>在籍児童生徒の実態</td><td colspan="2">３年　Ｓ児
・自閉症スペクトラム障がい、多動性障がい、言語発達遅滞
・ルールが複雑なゲームには参加できない。
・複雑な動きのあるダンスは理解するのが難しい。
・複雑な作業は、「できない」「難しい」と訴えることがある。
・一人で蝶々結びをすることができない。
・一人で靴ひもを結ぶことができない。
・一人で固結びをすることができる。</td><td>目標・指導内容
○蝶々結びの仕方を覚え、一人で蝶々結びをすることができる。
○靴ひもを自分で結ぶことができる。
・教材を使い、自分の力で蝶々結びができるようにする。
・自分で靴ひもが結べるようにする。</td></tr>
<tr><td>指導の経過・工夫点・子どもの変容</td><td colspan="3">○対象のＳ児が普段はいている靴は、マジックテープのワンタッチ式である。そのため、蝶々結びの必要性をあまり感じていないが、今後この結び方が生活の場面で起こることが予想される。そこで蝶々結びの仕方をマスターさせていきたいと考えている。

①教材の作り方
日常的に繰り返し蝶々結びができるよう、教材を作る。
材料…靴ひも、段ボール、靴の絵をプリントした用紙。
工夫…段ボールの角を丸くする。本物の靴ひもを使用。

②教材を活用した指導
・教師がＳ児に蝶々結びの仕方を見せる。
・教師が手を添えて、一緒に蝶々結び練習する。
・教師が声をかけながらＳ児が一人で蝶々結びをやってみる。
※複雑な動きを「わっか→くるりん→とんねる→わっかをぎゅっ」と言語化し、動きをイメージしやすくする。

③繰り返しの練習…少しずつ自分一人で蝶々結びができるようになってきている。
  </td></tr>
<tr><td>成果と課題・今後の方向</td><td colspan="3">・日常的にいつでもできるようになり、少しずつだが児童自身も上達している。
・自宅に持って帰ることができ、学校と家庭で同じ練習が可能となった。
・短い時間で練習が可能となった。
・紐の色を変えた方がよかった。
・結ぶ指導だけでなく、ほどく指導も必要であった。
・紐をだんだん短くしていくことを考えている。</td></tr>
</table>

通級による指導　実践事例

年間指導目標	・場や状況に応じた声の大きさで話すことができる。 ・一方的に話さずに、順番に話して会話をすることができる。			
対象児童生徒の状況	学年	小学校２年生	指導時期	４月～
	・場や状況に合わない大きさの声を出してしまう。 ・自分の気持ちを抑制できずに行動してしまう時があり、そのことを自覚できていない。 ・相手の気持ちや自分が周りからどう思われているのかを想像できない。 ・自分が話したい話を一方的にしてしまう。			
関連する自立活動の内容	区分	内容		
	人間関係の形成	（２）他者の意図や感情の理解に関すること		
	人間関係の形成	（３）自己の理解と行動の調整に関すること		
	人間関係の形成	（４）集団への参加の基礎に関すること		
	コミュニケーション	（５）状況に応じたコミュニケーションに関すること		
本事例のキーワード	声の大きさ　会話			

指導の具体的な様子

題材名	場や状況に応じた声の大きさや会話のやり取りの指導	
題材目標	（１）それぞれの活動に適した声の大きさで話そう （２）会話をする時に交互に話そう	
学習内容	指導・支援と留意点	備考・評価
（１）あいさつ	○あいさつをする ・今日の活動の流れとめあてを確認する。 ・「声のものさし表」を見て、それぞれの声の大きさを確認する。	
（２）コグトレプリント	○集中力を鍛えるコグトレプリントをする ・声の大きさは「０」であることを確認する。 ・声の大きさが「０」だと集中しやすいことや結果がよくなりやすいことを確認する。	・声の大きさ「０」 ・コグトレプリント
（３）行動のふりかえり 「声のものさし表」（特別支援教育「すぐに使える！プリント＋ビデオクリップ」よりダウンロード）	○日常生活でのふりかえりをする ・声の大きさは「１」であることを確認する。 ・通常学級での様子を担任に聞いておき、言動のふりかえりをさせる。自覚できていなかった時は担任から見た様子を伝え、自分の言動を自覚させる。 ・通常学級担任と連携を取り、学校や学級のきまりやルールを一貫して指導する。 ・自分の言動に対しての自分や相手の気持ち、どうするべきだったのかを考えさせる。	・声の大きさ「１」 ・ワークシート ・児童の発言
（４）声の大きさゲーム 	○サイコロで出た目の声の大きさでセリフを言う ・声の大きさは、サイコロの目の数によることを確認する。 ・セリフカードは、いくつもの状況に合わせて種類別にしておき、本人に選ばせて活動への意欲を高めさせる。 ・本児と教師が交互に行い、セリフの声の大きさに対してお互いに評価とアドバイスをし合う。	・声の大きさ「サイコロの目の数」 ・本児が教師に対して評価とアドバイスができたか
（５）こころかるた 〔製作・販売：㈱クリエーションアカデミー、商品名：こころかるた(子ども向け)〕	○かるたを引いてお題に対する答えを言う ・声の大きさは、話し手は「１」聞き手は「０」であることを確認する。 ・話し手が話している間は聞き手は話に割り込んではいけないルールにして話す順番を意識させる。 ・話の終わった合図としてベルを鳴らす。	・声の大きさ「１」 ・話に割り込んでいないか ・順番に話すことができたか
（６）ふりかえり	○今日の活動の中で良かったところを確認する。 ・ふりかえり表に、声の大きさを守れたかと会話の順番を守れたかについて◎、○、△を貼る。	・ふりかえり表
（７）あいさつ	○あいさつ ・次回の予告をする。	

指導の成果（児童生徒の変容・通常学級での様子など）

・通常学級の本児の机上に「声のものさし表」を貼ったことで、通級でも通常学級でも同じ指導ができるようになった。静かにしなければいけない場面で声を出したり声が大きすぎたりした時に、担任が机上の「声のものさし表」を指さすと、自分が声を出していたことや声が大きすぎたことを自覚し意識できるようになってきた。
・声の大きさへの意識が強くなり、「○○の活動の時は声の大きさは○にしよう。」と提案するようになった。
・会話をする時に順番を意識するようになった。今までは、相手の話を無視して自分の話ばかりをしていたが、相手の話を最後まで聞けるようになってきたので、相手の話を広げたり自分の経験と結び付けたりして返事をするようになってきた。

通級による指導　実践事例

年間指導目標	S児：自分の気持ちを、自分の言葉でしっかりと相手に伝えることができる。 M児：自分のやりたいことと、今やらなければならないことの優先順位を考えて、気持ちを切り替えることができる。 K児：毎朝学校に間に合うように、元気よく登校し、学級の授業に落ち着いて参加することができる。			
対象児童生徒の状況	学年	小学校３年	指導時期	10月～
	S児：自閉スペクトラム症（高機能） 自分の思いを言葉で表現することが苦手なので、相手に手を出したり、黙ったままやりすごそうとしたりすることがある。発音が不明瞭なものがある。 M児：自閉スペクトラム症 、注意欠如多動症 注意散漫で集中できる時間が短い。自分の言いたいことは一方的に話すが、相手からの質問に興味がないと、返事をしないことが多々ある。 K児：注意欠如多動症 一斉指導では、席について学習できないことがある。個別に声かけしてもすぐに離席したり、寝そべったりして、学習に参加できないことがある。			
関連する自立活動の内容	区分		内容	
	コミュニケーション　（S児）		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること	
	心理的な安定　（M児）		(2)状況の理解と変化への対応に関すること	
	環境の把握　（M児）		(2)感覚や認知の特性についての対応に関すること	
	人間関係の形成　（K児）		(4)集団への参加の基礎に関すること	

指導の具体的な様子

題材名	UFOキャッチャーゲーム		
題材目標	ルールを守って楽しく活動に参加し、仲間意識を高め、協力して目的を達成することができる。		
本時のねらい	S児：仲間意識を高め、自分の考えを相手に伝えたり、友だちの話に耳を傾けたりできるようにする。	M児：ルールを守って楽しく活動に参加し、場に応じた行動調整や対応ができるようにする。	K児：ルールを守って楽しく活動に参加し、集団の活動に協力できるようにする。
学習内容	指導・支援と留意点		備考・【評価】
(1) あいさつ	○あいさつをする。 ・本時の活動の流れを確かめる。 ・各自で今日のめあてを決める。		ホワイトボード
(2)ゲーム	○「UFOキャッチャーゲーム」をすることを伝える。 ・ルールの確認 ・『みんなで楽しく遊ぶため６か条』を確認する。 めあて　協力してUFOキャッチャーゲームをしよう！ 『UFOキャッチャーゲームのルール』 ① ３人で協力してテープを引っ張る。 ② ペットボトルにゴムを引っかけて、指定の場所まで運ぶ。 ③ 全て移動させるまで何分かかるかタイムを記録する。 『みんなで楽しく遊ぶための６か条』 ① 誘い合う ② 順番を忘れない（守る） ③ 勝手にルールを変えない ④ 友だちがしていることを見る ⑤ 最後までやり続ける ⑥ 準備や片付けをする ・ゲームをする。		ペットボトル・ゴム スズランテープ ワークシート
(3)振り返り	○本時の振り返りをする。 ・ルールや『みんなで楽しく遊ぶための６か条』を守れたか確認する。 ・自分や友だちの行動や発言で良かったところを共有する。		【評価】 ワークシート・言動

指導の結果（児童生徒の変容・通常学級での様子など）

【今回の自立活動の結果】

・3 人で仲良く、楽しくゲームをすることができた。前向きに活動に取り組むことができた。

・3 人同時にペットボトルを運ぶことが難しかったので、2 人ずつ取り組むように内容を変更した。

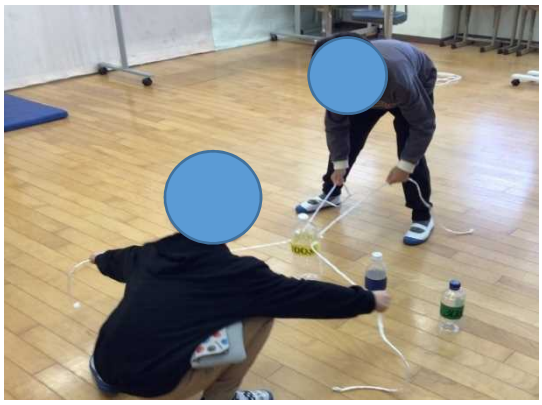
・ S 児は、他の二人の様子を見ながら積極的にアドバイスすることができていた。

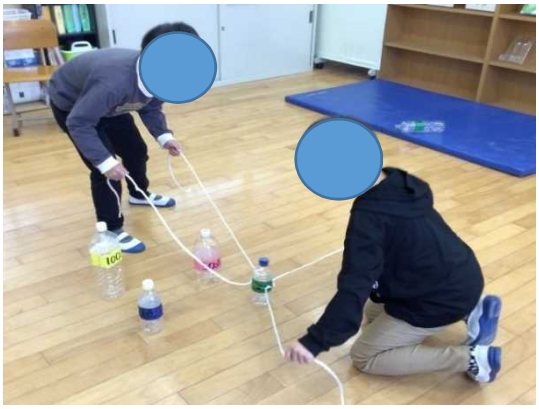
・M児は、自分の順番になるとゲームに参加でき、積極的にすることができていた。
しかし、自分の順番でない時は、集中力が途切れ、別のことを考えたり、手遊びをしたりしていた。

・M児は、UFO キャッチャーの紐の力加減を調整することが難しかった。上手くいかず、少しイライラすることもあったが、他の二人の声かけで気持ちを切り替えることができていた。

・K 児は、自分一人で競争するゲームは楽しむことができるが、今回のようなチームで協力するゲームでも仲良く楽しむことができるということが分かった。

・K 児は、授業中にはあまり見られないような、友だちへの声かけや前向きな言葉かけができていた。



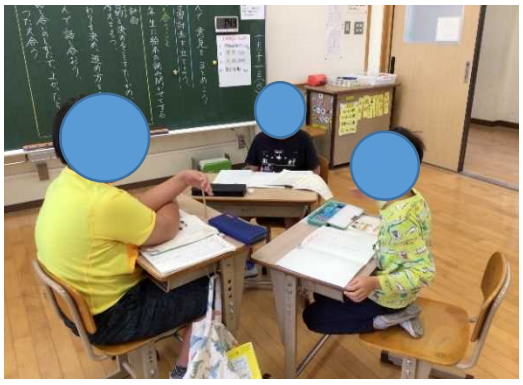


【児童の変容・通常学級での様子】

・S 児は、自分の考えや思いをきちんと伝えることがかなりできるようになってきたが、まだまだ黙ったままやり過ごそうとする場面がある。特に自分に非がある場面（宿題忘れや持ち物忘れなど）では、正直に話し出すまでに時間がかかる。

・M 児は、授業中だけでなく、給食や朝の用意の時間など、何をするにも集中力が持続できず、他のことに興味がいってしまう。しなければいけないことをナンバリングして、イラストをつけたカードなどを支援として使っているが、慣れてくると効果がなくなってくる。

・K 児は、新しいことを始める際に、失敗したくないという不安が強く、集団参加が難しいことが多い。しかし、通級指導教室での自立活動では、積極的に楽しみながら活動に参加することができているので、ここで成功体験をたくさん積んで、通常学級でも生かしていきたい。



『UFOキャッチャーゲームのルール』

①３人で協力してテープを引っ張る。

②ペットボトルにゴムを引っかけて、指定の場所まで運ぶ。

③全て移動させるまで何分かかるかタイムを記録する。

『みんなで楽しく遊ぶための６か条』

① 誘い合う

② 順番を忘れない（守る）

③ 勝手にルールを変えない

④ 友だちがしていることを見る

⑤ 最後までやり続ける

⑥ 準備や片付けをする

通級による指導　実践事例

<table>
<tr><td>年間指導目標</td><td colspan="4">・学校生活で、トラブルに接したとき、できるだけ多くの解決策を考え、相手にとっても自分にとっても嫌な思いをしない解決策を選択できるスキルを身につけ、今後に生かそうとする意欲をもつことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象児童生徒の状況</td><td>学年</td><td>中学校２年</td><td>指導時期</td><td>２学期</td></tr>
<tr><td colspan="4">・人の気持ちを考え、思いやる態度をとることは少ない。
・相手の非を見つけて、それを攻撃して自分に注意を集めようとすることが見られる。
・個人で活動することが多く、iPad を活用し web にあるアニメの登場人物を書き写すなどの作業をスピーディに、正確に行うことが得意で、休み時間等一人でノートに描いている場合が多い。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">関連する自立活動の内容</td><td></td><td colspan="3">内容</td></tr>
<tr><td>心理的な安定</td><td colspan="3">⑴情緒の安定に関すること</td></tr>
<tr><td>人間関係の形成</td><td colspan="3">⑵他者の意図や感情の理解に関すること</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション</td><td colspan="3">⑸状況に応じたコミュニュケーションに関すること</td></tr>
<tr><td>本事例のキーワード</td><td colspan="4">ソーシャルスキルトレーニング、対応方法、相手の気持ち</td></tr>
</table>

指導の具体的な様子

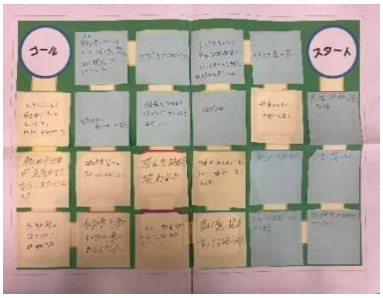
<table>
<tr><td>題材名</td><td colspan="2">様々なシチュエーションに応じた対応を考えよう（双六ゲーム）</td></tr>
<tr><td>題材目標</td><td colspan="2">・学校で起こりそうなトラブルについて、相手の気持ちを推測し対応策を考えよう。
・友だち等の解決先を聞き、よりよい対応を考え、自分の行動を振り返ろう。</td></tr>
<tr><td>学習内容</td><td>指導・支援と留意点</td><td>備考・評価</td></tr>
<tr><td>（１）あいさつ

（２）説明を聞く</td><td>〇あいさつをする
・めあての確認をする。

〇双六のやり方を確認する。
・自分の番になったらサイコロを振って、出た目の数だけ進む。
・そこに書かれたシチュエーションのことについて話し、その話に基づいてみんなでも話す。
＜約束＞
・友だちの応えを聞こう。
・友だちの応えに反応しよう。（頷く、相槌を打つ）
・友だちの応えに質問しよう。</td><td>・双六
・サイコロ

・ホワイトボード

・トラブル例（ソーシャルスキルトレーニング絵カード「状況の認知絵カード　中高生版」エスコアール　活用）</td></tr>
</table>

	＜学校でのトラブル例＞ ・具体的例をイラストで示す。 ・学校生活でのトラブル例を取り上げる。	
（３）双六ゲームをする  	○双六ゲームをする。 ・順番を決める。 ・自分が引いたシチュエーションについて、自分の経験を踏まえて、最も良い対応策について話す。 ※応えるのが難しい場合、具体例を出して説明する。 ・実際にそのような場面に出会ったことがないか確認する。 ・応えの理由を尋ねる。 ・聞いている人は反応する。 ・疑問がある時は、質問する。	・お題に応えることができたか。 ・理由をいうことができたか。 ・相手がどんな気持ちなのかを考えて発言できたか。 ・質問することができたか。
（４）ふりかえり	○感想を発表する。 ・楽しかったこと ・初めて分かったこと ・参考になったこと ・感心したこと	・感想を発表することができたか。 ・相手の気持ちを考えた発言についての感想を評価しているか。
（５）あいさつ	○本時のまとめと次時のお知らせをする。 ・どのように普段の学校生活にいかしていくのか等	

指導の成果（児童生徒の変容・通常学級での様子など）

・在籍学級担任と指導目標、内容を話し合うことで、在籍学級での自己中心的な行動から、協調性のある行動に向けた改善を支援することができた。 ・在籍学級では、同級生の指示やルールに同調せず、マイルールで行動しトラブルが多かったが、相手の気持ちや集団のルールに応じた対処をすることが、少し見られるようになった。

通級による指導　実践事例

<table>
<tr><td>校種</td><td>小学校</td><td>本事例の教科等名</td><td>自立活動</td></tr>
<tr><td>在籍児童
生徒の実態</td><td>小学校３年Ａ児
・漢字の読み・書きに困りがある。音読では、たどたどしい読みになる。
・姿勢を維持したり、集中したりして聞くことが苦手。活動は活発にできる。</td><td>目標
・
指導
内容</td><td>・長く集中して、活動に取り組める。
・漢字の違いを理解し、読めるようになる。
（心理的な安定・環境の把握）</td></tr>
<tr><td>指導の経過・工夫点・子どもの変容</td><td colspan="3">※学習への意欲を持たせる工夫
○はじめに、授業の流れを考えさせる。（今日の調子・活動・ふり返り）できるだけ活動をパターン化して、Ａ児に見通しを持ちやすいようにする。
○学習道具の確認をさせる。できているときには、褒めてシールを渡す。
○集中が途切れないように、活動の間に、体をほぐす運動や目をほぐす運動などリラックスタイムを取り入れながら集中できるようにする。
※指導の工夫
①間違い探し・迷路…時間の最初に、どれをするかは、Ａ児に選択させ、意欲を持たせる。間違い探しで、間違いが見つからないときには、Ａ児からの要求を待ち、ヒントを出して探す部分を一部にする。
②文字・絵カード…絵を見てイメージすることや聞くことはできるので、視覚の情報とともに、聴覚からの情報も入れて、読めるようにする。
③漢字のつくり…漢字の部分ごと分け、漢字の組み立て、漢字のたしざん・引き算、漢字の仲間探しなどのプリントから、Ａ児が選んだものをさせる。
①間違い探し

出典：宮口幸治著　コグトレ　みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング　三輪書店
②文字・絵カード

出典：杉本陽子作「漢字のフラッシュカード」
③漢字プリント

出典:宮下久夫･篠崎五六･伊東信夫･浅川満著　漢字がたのしくなる本－500 字で漢字のぜんぶがわかる(1)(2)　太郎次郎社
※変容
○授業の流れをパターン化することで、見通しを持ち安心して取り組み、集中の時間が長くなり、次の活動を考えることができるようになった。
○漢字の読みに少しずつ自信を持つようになり、絵と組み合わせることで読める文字が多くなり、意欲的な態度が見られるようになった。</td></tr>
<tr><td>成果と課題・今後の方向</td><td colspan="3">※成果
○漢字の文字・絵カードを使って、３年担任と連携をして、読みを続けることで２年生の漢字の読みが徐々にできるようになってきている。
○板書を写す活動が、速くできるようになってきている。
※課題
○漢字の読みには、少しずつ自信を持ってきているが、漢字の書きは、具体的に書かせることをあまりしていない。これからの取り組みをどうしたらよいかが課題である。
※今後の方向
○３年教室で、集中する時間が、学習内容によって差ができるため、指導の重点を決めて担任と協力して取り組む。</td></tr>
</table>